

〔附属資料C〕 面会者リスト

(1) 日本大使館

- 小杉照夫大使
- 伊藤勝参事官
- 藤田伊織一等書記官

(2) JICAリマ事務所

- 笹野暉樹所長
- 大峯保広所員
- 寛 克彦所員

(3) OECF中南米事務所

- 湯沢三郎首席駐在員

(4) MINISTERIO DE TRANSPORTES Y COMUNICACIONES

(運輸通信省)

- Eolyan Comjos Montolno
(Vice Ministro de Transportes)
- Coronel Fap. Carlos Minaya Torres
(Director General de Transporte Aéreo)
- Comd. Fap. Ennigne Gonzales
(Director Ejecutivo de Transporte Aéreo)
- Ing. Luis Alberto Li Wong
(Director de Infraestructura Aéreo)
- Abel Contreras S. (Asesor legal)

(5) CORPORACION PERUANA DE AEROPUERTOS Y AVIACION
COMERCIAL S. A. (CORPAC) ペルー民間航空空港公団

- General Fap. Ricardo Martens
(Presidente de CORPAC)
- Ing. Jorge Basurto
(Gerente General de CORPAC)
- Ing. Carlos Villasante Zamalloa (施設部)
(Gerente de Ingenieria)
- Ing. Luis Alberto Cardenas Polar
(Jefe de Pistas Operacionales)
- Mario W. Ruiz Rios

- (Jefe de Estodesliea) 企画室長
- Eduardo A Mora Gago (技術部)
(Gerente Technico)
 - Manuel Pielsgo Mydrid
(Asistente Proy. Aycidas)
 - Daniel López Ramirez
(Asesor Dpto. Sern. de Ingenieria)
 - Segundo Vesa Wuezade (財務部)
(Gerente Financioso)
 - Hector Sheen Castro
(Division Rentas Aeronauticos)
 - Manuel Porpio S.
(Jefe Dpto Analisis Financiero)
 - Jorge Fspiwoza Nieri
(Jefe Dpto Obras y Conservacion)
 - Jesus Rodriguez Davalos
(Tec. Laboratorista Mecsuenos)
 - Frankin Valdivia Loayza
(Jefe Division Edificaciones)

(6) 航空会社関係

- Roberto Heredia
(Gerente de Estación, KLM Royal Dutch Airlines)
- Jorge Rabunal
(Gerente de Estación, Aerolineas Argentinas)
- Cesap A Ochoa Rillo
(Gerente de Estación, IBERIA Espnia)
- Juan Orosco
(Gerente de Estación, Canadian Pacific)
- Jorse Hoyos M.
(Gerente de Estación, Aeroperu)
- Jorge Garcia
(Gerente de Estación, LAB)

〔附属資料D〕 詳細調査日程

リマ国際空航整備調査事項

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内 容
10/30	火	0615 0700 0900 1500	リマ着 ホテル JICA事務所 日本大使館	Sr. MATTA (CORPAC顧問) 笹野所長, 寛所員 大場通訳 大 使 参事官 書記官	① 団員紹介 ② スケジュール打合せ 団内打合せ ① 挨拶, 団員紹介, 通訳紹介 ② スケジュール打合せ ① 挨拶, 団員紹介 ② 調査予定説明
10/31	水	午前	運輸通信者	E. GONZALES (次長) LI WONG 空航開発部長 以上MTC VILLASANTE (技術部長) CARDINAS (滑走路主任) 以上CORPAC	○ 運輸通信相, 航空輸送総局長に代り, ゴンザレス次長から歓迎の挨拶 (総局長は大統領と会議) ○ 高瀬団長挨拶及び団員紹介 ○ JICA所長挨拶 ○ 調査団のスケジュール調整 1. 11月2日～8日まで適宜 CORPACで空港調査及び資料収集 2. 空港利用者(航空会社)側の意見 収集のための便宜依頼 3. 新クスコ空港建設予定の内容調査 のための便宜依頼 4. S/Wの署名の日取り ○ S/W DRAFTの説明 1. 署名者について 日本側はCORPAC総裁をペルー 側はLIWONGを主張 理由: CORPACは空港の維持管理を

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内容
					<p>担当しているため。</p> <p>2. 使用言語について 日本側は英語、ペルー側は西語 理由；ペルー国内法では西語を使用 することとなっている。</p> <p>後日調整</p> <p>3. マスコミについて サインのとき、マスコミが立ち合 った方が日本側としては有利なので 便宜依頼</p> <p>○ QUESTIONNAIRE の説明 質問書を手渡して、各項について説 明、調査日程の中で入手可能な資料は 調査団滞在中に入手し検討できるよう 協力を依頼し、了承を得た。</p> <p>○ ペルーの政治、経済情勢について</p> <p>1. 税収が落ち込み、予算は前年比 4割減となっている。</p> <p>2. 外国からの融資は、これまで約束 を反古にした例が多く、銀行が反発 している。</p> <p>3. 来年大統領選挙が行われるが、国 民に人気のある革新系の人物となる 予想が出ている。</p> <p>4. 大統領選後、行政機関の人事刷新 が行われるだろう。</p> <p>5. 不要不急のプロジェクトはなるべく 実施しない方針のようだ。</p> <p>6. 国としては、倒産に等しいので、 近年の生産関係統計資料はないので はないか。</p> <p>7. その他ペルー国内の政治、経済が</p>
		午後	OECFリマ駐 在員事務所	湯沢三郎氏	

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内 容
					<p>破産状態であること、大統領選まで大きな動きができないことなど説明を受けた。</p> <p>ホルヘチャベス空港周辺調査</p>
11/1	木				国内打合せ
11/2	金	午前	CORPAC	VILLASANTE (技術部長) CARDENAS (滑走路主任) RUIS RIOS (企画室長)	<p>○各質問事項等に調査開始</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 需要予測関係データは10年前からの統計がある。それ以前のは統計上の整理が異なる。企画室が担当しているので来週までに用意する。 2. 航空保安施設、貨物運搬用品、消防用品など世銀の融資による購入計画があり、すでに入札が終了している。資料は来週まで用意する。 3. 空港関係資料、保安施設関係資料等調査団から要求のあったものは、できる限り来週前半中に用意する。 <p>○午後、CORPAC 総裁に面会できるよう配慮している。</p> <p>○S/Wの署名者は、運輸通信省で、CORPACではない。</p> <p>○クスコ空港調査について、クスコ空港長に連絡を取る。</p>
		午後	CORPAC	MARTEN (総 裁) BASULT (Gマネジャー)	<p>○総裁は調査団について、よく理解しておらず、ペルー政府のT/Rを渡して説明した。</p> <p>○リマ国際空港整備調査についての調査団の考え方を質問されたのに対し、長期的には西側へターミナルを移すが、短期的には現ターミナルを有効に利用</p>

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内 容
					<p>する計画とするのが望ましい旨回答した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総裁から リマ空港は <ul style="list-style-type: none"> 1. R/Wが古く強度が保てない。 2. ターミナルが狭い。 3. ペルーの経済事情を考慮した応急的な対策が必要。 <p>などの現状説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リマ空港の改善について必要な資料の収集について十分協力する。 ○ 資料収集の窓口は VILLASANTE 部長とし、彼が動きが取れないときは、BUSURT マネジャーが配慮する。 ○ S/Wの署名について 日本側から CORPAC 総裁の署名が望ましいと説明。ペルーの法令で困難なので総裁から局長へ調整を計る。 ○ 我々以外のミッションとして <ul style="list-style-type: none"> 1. ICAOのメンバー 2. ドイツミッション 3. ターミナル拡張計画がある。
11/3	土		クスコ空港	RODRIGUEZ (クスコ空港長)	<ul style="list-style-type: none"> ○ クスコ空港場内施設調査、貨物状況調査 ○ 新クスコ空港予定地（チンチェロ）及び気象観測施設調査
11/4	日				団内打合せ

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内容
11/5	月	午前	CORPAC	VILLASANTE (技術部長)	○調査に必要な資料の入手方法について 打合せ, その結果調査団は2班に分れて 調査することとする。
				CARDINAS (滑走路主任)	
		午後	CORPAC	MORA (保安部長)	○保安施設の現状把握のための資料(様 式を指定)を要求, 明日13:00まで に作成依頼
				PIELAGO LOPEZ (保安部)	
				VERA (財政部長代)	
午後	CORPAC	SHEEN (財務部)	○世界銀行から融資を受けて入札した物 品のリストを要求, 明日までに用意さ せる。 ○CORPACの収支関係資料収集 1.ペルー全体とリマ空港の収支 2.収支の内容及び算出基準 3.4~5年前から作成できる。 明日12:00まで用意する。		
A班 内門 片岡	月	午後	CORPAC	KLM	○リマ国際空港についての現況, 問題点 等について, 航空会社の現地責任者か らヒアリング
				R HERFDIA アルゼンチン航空	
				J. RABURAL イベリア航空	
				C. A. OCHOA カナダシフィック航空	
				J. OROSCO ペルー航空	
		午後	CORPAC	J. HOYOS	
				L A B	
				J. GARCIA	
B班 高瀬 唯野 貝原	月	午後	CORPAC		

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内 容
11/6	火	午前	CORPAC	VILLASANTE (技術部長)	<ul style="list-style-type: none"> ○先に要求していた調査資料のうち、でき上がったものについて説明聞く。 1.ターミナル平面図 2. " 側面図 3.エプロン関係図面
				PARBIO (財政部)	<ul style="list-style-type: none"> ○CORPAC収支資料入手 ○収支内容及び算定基準の抜粋 ○収支報告書のコピー作成を依頼(午後4時入手)
A班 内門 片岡		午後		PIELAGO LOPEZ (保安部)	<ul style="list-style-type: none"> ○保安施設資料入手 ○世銀融資物品リスト一部入手 ○保安施設等視察
				午前	運輸通信省
B班 高瀬 唯野 貝原		午後			○S/W MINUTESについて団内打合せ

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内 容	
11/7	水	午前	CORPAC 運輸通信省		<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査資料入手のためCORPACを訪問 担当のCARDINAS氏がMTCへ行っ ており、VILLASANTE氏も会議出 席とのことなのでMTCへ行きB班と 合流の上航空輸送総局長訪問。 	
			午後	CORPAC	CARDINAS ESPINOZA RODRIGUEZ (技術部) VALDIVIA (ターミナル主任)	<ul style="list-style-type: none"> ○ CORPACからの提出資料の確認と未 提出資料の要求及び入手先に関するヒ アリング ○ エプロンの使用状態に関するヒアリン グ ○ 「ドイツミッション」に関するヒアリ ング ○ 「旅客ターミナルビル国際線部分拡張 計画」に関するヒアリング
		午後	午前	運輸通信省	LI WONG A CONTRERAS (MTC) CARDINAS (CORPAC)	<ul style="list-style-type: none"> ○ S/Wについて協議 <ul style="list-style-type: none"> 1. ペルー側の署名者は、航空輸送総 局長とする。 2. 運輸通信省、CORPACの双方が 本格調査時の必要な調整を行う旨 MINUTESに記すこととする。 3. 使用言語について、ペルー側は英 文を正文とすることはできない旨主 張（ペルー側西文字提示）
					航空輸送局長	○ 表敬訪問
			午後	JICA 運輸通信省	LI WONG A CONTRERAS CARDINAS	<ul style="list-style-type: none"> ○ S/W西文字チェック作業 ○ S/Wについて 日本側は、英文を正文とする様主張 ペルー側と対立した末、結論は明日
				運輸通信省	副大臣	○ 表敬訪問

月日	曜日	時間	訪問先	面会社	内容
11/8	木	午前	CORPAC	CARDINAS ESPINOZA (技術部)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次の資料午後までに入手確認 <ul style="list-style-type: none"> 1. 「旅客ターミナルビル国際線部分拡張計画」作成時の計画内容を記したメモ 2. IATAミッションレポート 3. エプロンマーキング図 ○ スポットの運用についての情報入手先を確認 (オペレーションセクション及びリマ空港管理部)
A班 内門 唯野		1200	CORPAC	CORODEL (リマ空港管理部)	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポット運用の実態についてヒアリング ○ 同上資料入手
		1400	CORPAC	CARDINAS VALDIVIA	<ul style="list-style-type: none"> ○ 午前中要求した資料3を入手(希望のものと異なる), 1はなく2は入手できなかったとされた。 ○ IATAレポートについてイースタン航空のVENG氏が知っているとのこと で紹介を依頼
		1500	EASTERN航空	VENG	<ul style="list-style-type: none"> ○ IATAレポートについて当時の状況をヒアリング ○ IATAがイベリア航空, ブラニフ航空, エアフランス, ルフトハンザ航空から成るAirport Consultanting Committee (ACC) を組織し, 2グループに分かれて各々リマ空港の改良案を提言したものであることが判明 ○ レポートの所在はCORPACの当時技術部長で現在GマネジャーであるBASURTO氏が知っていることが判明した。

月日	曜日	時間	訪問先	面会者	内容
11/8	木	午前	運輸通信省	LI WONG	<ul style="list-style-type: none"> ○ S/Wについて協議 英文、西文双方を作成し、英文を正文とする旨を記すことはしないことで協議が整う。 ○ マスタープランに関して、現実態拡張案と新空港案が考えられるが、ペルー側の意向を確認したところ現空港拡張案を考えているとの回答があった。
				A CONTRERAS	
		午後	JICA 運輸通信省	航空輸送総局長 航空輸送総局次長 LI WONG VILLASANTE CARDINAS	<ul style="list-style-type: none"> ○ S/W MINUTES作成作業 ○ 調査団長、航空輸送総局長間でS/Wの締結、テレビ局が2局および多数の報道陣の前で締結された。
	JICA 日本大使館	笹野所長 伊藤参事官 藤田一等書記官	<ul style="list-style-type: none"> ○ S/Wの締結を報告 ○ S/Wの締結を報告 		

B班
高瀬
片岡
貝原

(附屬資料E) 収集資料リスト

地域	南アメリカ	調査団	調査の種類	事前調査
国名	ペルー共和国	等名称	リマ国際空港整備計画事前調査団	現地調査期間
				5910月29日～ 年11月12日

番号	資料の名称	形態	版	型	ページ数	オリジナル コピーの別	部数	収集先名称又は発行機関	寄贈・購入 (価格)の別
I-1	リマ国際空港周辺図				1	コピー	1	CORPAC	寄贈
I-1	リマ国際空港平面図				1	コピー	3	CORPAC	寄贈
-2	無線施設位置図				1	オリジナル	2	"	"
-3	駐車場平面図				1	コピー	1	"	"
-4	スポット配置図(過去のもの)				1	"	1	"	"
-5	スポット配置図(現状)				1	"	1	"	"
-6	旅客ローディングスポット, ハイドラント位置図				1	"	1	"	"
-7	エプロン使用実態図-1, 2				2	オリジナル	1	CORPACからのピアリング の書込み	-
-8	スポット配置図(IATAによる検討)				1	コピー	1	CORPAC	寄贈
-9	空港拡張検討図(IATA)				1	"	1	"	"
-10	T/W東側の物件図				1	"	2	"	"
II-1	滑走路等縦横断面(a-i)				9	コピー	1	CORPAC	寄贈
III-2	舗装構造図				1	"	1	"	"

番号	資料の名称	形態	ページ数	オリジナル コピーの別	部数	収集先名称又は発行機関	寄贈・購入 (価格)の別
IV-1	進入経路図(a), 出発経路図(b)		2	コピー	1	CORPAC	寄贈
V-1	旅客ターミナルビル平面図(a~k)		11	コピー	1	CORPAC	寄贈
-2	タワー部分断面図(a~c)		3	"	1	"	"
-3	旅客ターミナルビル断面図(横断面)		1	"	1	"	"
-4	" (縦断面)		1	"	1	"	"
-5	旅客ターミナルビル立面図		1	"	1	"	"
-6	旅客ターミナルビルフィンガン平面図(国際線)		1	"	1	"	"
-7	" (国内線)		1	"	1	"	"
-8	旅客ターミナルビル(地下)		1	"	1	"	"
-9	旅客ターミナルビルフィンガン立面図		1	"	1	"	"
-10	" 断面図		1	"	1	"	"
-11	旅客ターミナルビル拡張・改良検討図(ICA0)		3	"	1	"	"
-12	旅客ターミナルビルフィンガン改良検討図(IATA)		2	"	1	"	"
-13	旅客ターミナルビル拡張・改良検討図(IATA)(a, b)		2	"	1	"	"
-14	国際線ターミナルビル拡張図(AOT)		1	"	3	"	"
VI-1	フライトタイムテーブル		200	オリジナル	1	CORPAC	寄贈
VI-2	ホルヘチャベス国際空港エプロン使用実績(国際線)		5	コピー	1	"	"

番号	資料の名称	形態	ページ数	オリジナル コピーの別	部数	収集先名称又は発行機関	寄贈・購入 (価格)の別 寄 贈
VI-3	ホルヘチャベス国際空港離着陸航空機実績		6	コピー	1	CORPAC	寄 贈
-4	Corporacion Peruana de Aeropuertoso Aviacion Commercid 1983年 (抜粋)			"	1	"	"
-5	Balance General 1982 Reajustato Por Revaluacion Activus Fuijos (抜粋)			"	1	"	"
VII-1	保安施設一覧表		8	オリジナル	1	CORPAC保安部	寄 贈
-2	保安施設位置図		2	"	1	"	"
VIII-1	地震関連データ		8	コピー	1	CORPAC施設部保安部	寄 贈
-2	世界銀行融資による物品購入一覧表		12	オリジナル	1	CORPAC	"
-3	A I P			コピー	1		

〔附属資料F〕 ホルヘチャベス国際空港拡張整備に関する既存調査

a. ICAOレポート

1976年7月から翌年8月までの一年間をかけて、ICAOから派遣された専門家の技術協力により運輸通信省が本空港の開発調査を行い、「DEVELOPMENT STUDY OF THE INTERNATIONAL AIRPORT "JORGE CHAVEZ"」というレポートに残している。このスタディは、ペルー国政府機関の承認を得て、公式のものとなっており、空港拡張用地に当る地域に対する規制を行っている。

同レポートは、需要予測、それに基づく施設規模計画、代替地の検討、現空港将来拡張基本レイアウト、段階整備計画、拡張用地の地形測量を含むしっかりしたレポートとなっている。しかしながら、レポートをとりまとめた1976年以降の本空港の航空需要の伸びが、それまでの目ざましい増加傾向に対して横ばい状態となってしまったため、現時点で見ると需要予測が大きくなるものとなっている。

レポートの概要は以下のとおりである。

○ 需要予測

1975年を基準年として、各5年毎に1995年までについて、主予測値、上限予測値、下限予測値を検討している。主予測値のうち主なものは、以下のとおりである。

○ 代替案（新空港建設）

現ホルヘ・チャベス国際空港の拡張・整備に代る代替案として、新空港建設による移転の可能性について、新たな2候補地を対象に検討されたが、結果的には否定され、現空港の西側（海側）地区への展開を含む、拡張・整備案が採択された。

○ 将来構想

現空港の拡張・整備の将来展望を、以下のように設定している（報告では、マスタープランと呼んでいる）。

- 現滑走路（15/33）の中心線から西側（海側）へ1,050mの間隔をおいた位置に、現滑走路に平行な、長さ2,900mの滑走路を新設する。
 - － 滑走路の着陸進入のカテゴリーをCAT-IからCAT-IIにグレード・アップする。
 - － 現滑走路（3,507m×45m）を主として国際線に、新滑走路を主として国内線用として運用する。
- 国内線旅客ターミナルを、2本の滑走路に挟まれる地区へ移転・新設する。
 - － 関連する国内航空会社施設等も移転する。
 - － 現ターミナル地区と新ターミナル地区の連絡道路を現NAVY地区を經由して建設する。
 - － ゼネラル・アビエーション施設も移転する。

- 現旅客ターミナルを改修ならびに北側への拡張をおこない国際線専用として利用する。
 - ー 旅客取扱いを、現在の一階のみの利用から、メザニオンを利用した、立体化を計る（代替案）。
 - ー フィンガー部分の2層化を計る（代替案）。
 - ー 駐車場を拡張する。
 - 貨物ターミナルを現在位置のまま拡張増設する（既に新貨物ターミナルビル完成）。将来は、さらに南側へ拡張する。
 - 給油施設を、南側の別地区へ移転する。
 - 陸軍、海兵隊の基地は、漸次、新滑走路のさらに西側地区へ移転する。空軍についても同様に将来移転する。
 - 航空交通管制施設・無線・通信施設についても適切な位置への再配置、機器の更新・新設をおこなう。
 - 現空港の東側地区に、空港関連施設を誘致する。
- 拡張・整備の段階的实施
- 1980年を初年として、1995年までを5段階に分け、緊急度の高いものから建設工事に着手する。

年間航空旅客数予測（国際・国内）

単位 1,000人

年次	国際 Inter- national Terminal 出入国	国際 Transit (counted once) トランジット	Total Inter- national	国内 Domestic	Total Terminal	Total including transit
1975 (実績)	706	261	967	1078	1784	2045
1980	1100	350	1450	2150	3250	3600
1985	1950	600	2550	3900	5850	6450
1990	3450	850	4300	6500	9950	10800
1995	5900	1250	7150	9800	15700	16950

年間航空貨物量予測 (国際・国内)

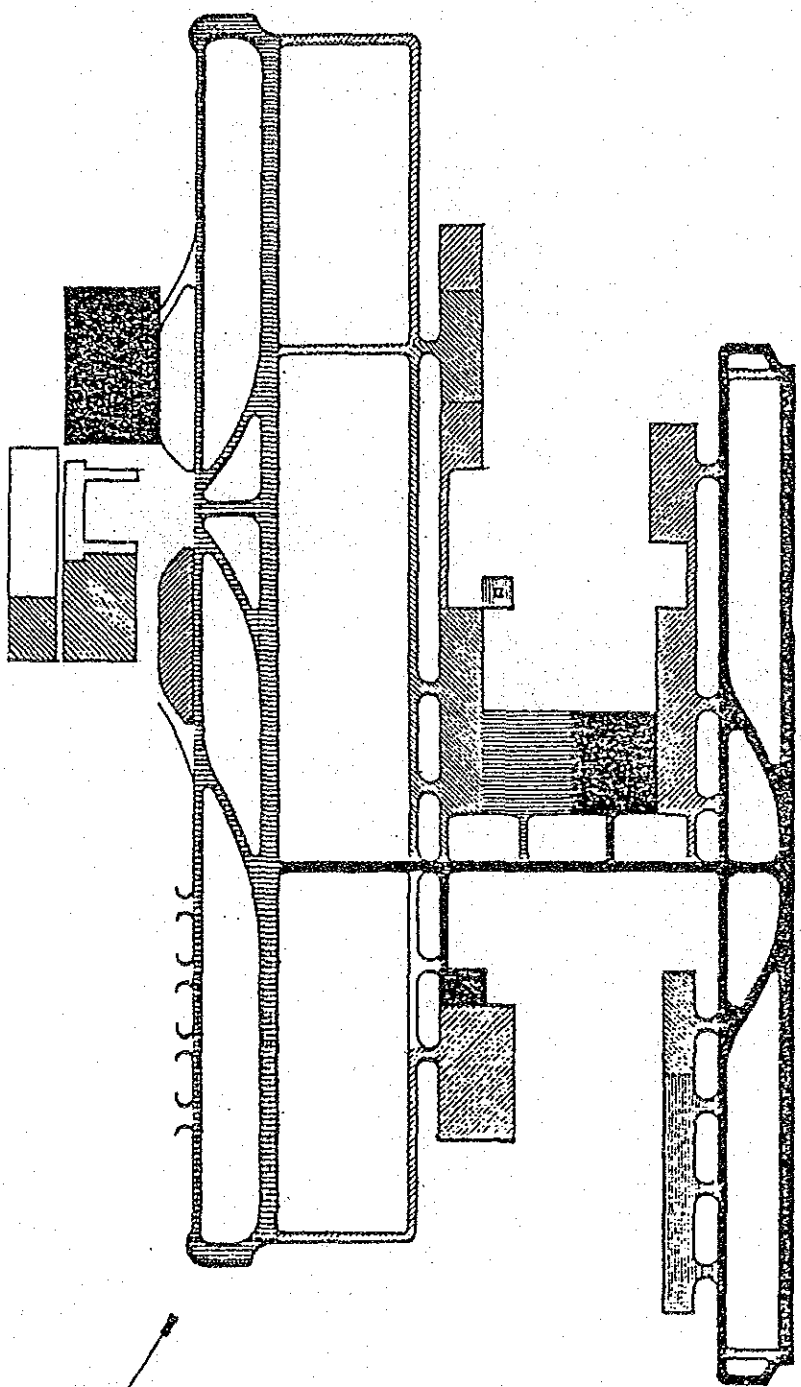
単位 1,000トン

年次	International Cargo 国際	Domestic Cargo 国内	Total Cargo	Mail 郵便	Total Cargo and Mail
1975 (実績)	17.6	13.6	36.2	1.0	37.2
1980	30	30	60	2	60
1985	55	55	110	3	110
1990	90	90	180	6	190
1995	160	160	320	10	330

年間航空機離着陸回数予測

単位 1,000回

年次	Commercial Passenger			Commercial Cargo			Commercial Total	Other Movements	Total
	Int	Dom	Tot	Int	Dom	Tot			
1975 (実績)	15.9	18.2	34.1	0.7	0.4	1.1	35.2	7.7	42.9
1980	20	35	55	1.1	0.4	1.5	5.5	9	65
1985	30	55	85	1.6	0.8	2.4	90	11	100
1990	45	90	135	2.8	0.8	3.6	140	13	155
1995	65	130	195	4.9	1.2	6.1	200	16	215



L E Y E N D A

- 1980 - 1982 NUEVAS CONSTRUCCIONES
 - 1982 RECUBRIMIENTO DEL PAVIMENTO DE LA PISTA ACTUAL.
 - 1985 - 1990 AMPLIACION DE LA ZONA DEL TERMINAL DOMESTICO DE PASAJEROS.
 - 1990 - 1995 AMPLIACION DE LOS TERMINALES INTERNACIONAL Y DOMESTICO Y PARTE DE LA ZONA DE MANTENIMIENTO DE AERONAVES Y DE LA PLATAFORMA DE AVIACION GENERAL.
- 1995 AMPLIACION DE LOS TERMINALES DOMESTICOS DE PASAJEROS Y DE CARGA Y DE LA ZONA DE MANTENIMIENTO DE AERONAVES.
 - DESARROLLO CUANDO SEA NECESARIO

PLAN DE SECUENCIA DE CONSTRUCCION	
AEROPUERTO JORGE CHAVEZ	
LIMA - PERU	
DIBUJO: C. G. S.	FECHA: 21-1-77
	ESCALA

リマ空港拡張整備計画

b. IATAによる提案

イースタン航空のベン氏からのヒアリングによれば、IATAによる提案が作成された経緯は以下のとおりである。

「1975年、一航空会社がリマ国際空港の施設改良についてIATAとしての提案をCORPACに行うための計画を作成する目的で、数社の航空会社のメンバーより成るACC (Airport Consulting Committee) を組織した。同ACCは5つの計画案をCORPACにプロポーズ、CORPACはそのひとつをモディフィケーションして、それを運輸通信省のインフラセクションへ送った。運輸通信省は、それを承認してCORPACへ戻し、資金を採すよう指示した。

ACCは、計画作成に当り、2つのグループに分かれ、ひとつのグループはターミナルビル・フィンガーの改良をもうひとつのグループは、エプロンの改良を担当した。

計画書は当時のゼネラルマネージャーであるマッチ氏に渡したはずであるが、施設部長であったBasurto氏(現ゼネラルマネージャー)が受け取っているであろう。」

提案された計画の内容は以下のとおりである。

- 旅客ターミナルビル・フィンガー改良の計画は、国際線と国内線のピーク時が異なることに着目し、国際線のピーク時には国際線航空機が国内線のフィンガーを利用できるよう改良すると共に、合せてゲートラウンジの容量を増大させようとするものとなっている。両フィンガーを2階建にし、既存の国際線フィンガーは2階に出発動線を、1階に到着動線を国際線専用として確保し、既存の国内線フィンガーは2階に、国際線の出発・到着動線を、1階に国内線の出発・到着動線を確保する計画となっている。IATA作成の案であるため、国際線を優先する計画となっている。
- エプロンの改良は、既存のエプロンを使用して、航空機マヌバリング動線と駐車位置の変更によって、スポット数13を確保した上で大型化、出入の容易化を図ろうとした計画となっている。ハイランドの給油口の位置を変更する工事が伴うことになる。

〔附属資料G〕 航空会社からのヒアリング結果

11月5日、本空港に乗り入れている航空会社の代表（KLM、アルゼンチン航空、イベリア航空、カナダパシフィック航空、ペルー航空、ボリビア航空）から、本空港に関するヒアリングを行った。以下にその結果を示す。

- 8～10年前にIATAのミッション（アリタリア、ルフトハンザ、イベリアの各航空会社）が来て、本空港の改善計画について調査を行っている。
- 時間帯によってエプロンが不足する。特に土曜日の午前中と同日の夜間。（5時～8時30分の間に、カナディアン；DC10-2機、KLM；DC10-1機、ルフトハンザ；B747-1機、パナマ；B747-2機が重なり、その他、現在運休中のイースタシ；L1011-2機がある。また、夜間には、アルゼンチン；B747-1機、カナダパシフィック；DC10-2機の他、DC10が5機重なる。）これに対し、国際線のスポットは5スポットのみである。その他、第1スポットがあるが、小型機（セスナタイプ～B727）の給油にしか利用されていない。
- ブラックゾーンのエプロンも、過去においてはオープンエプロンとして旅客ローディング用に使用していたが、バスのサービスがなくなって、現在は旅客機はナイトステイにしか使用していない。しかし、例えばバスサービスがあっても、ブラックゾーンに給油のためのハイドラント施設がなく、又、ゲートラウンジが狭く余裕がないという問題がある。
- 国内線を他へもって行ったらどうかとCORPACに提案したことがあるが、費用がかかりすぎるということであった。
- トランジットのための短時間ステイ旅客に対しても一度入国し、再度出国手続きするシステムとなっており、その際、空港使用料として10ドル（外国人の場合であり、ペルー人の場合は35ドル）払わされている。
- スルー手荷物の仕分け場が現在行っている地下ではなく、地上に必要である。
- 手荷物が紛失する等管理状態が悪い。
- ハイジャック対策のためのチェックが行われていない。
- （増便に対する空港側からの制約はないかとの質問に対し）需要が伸びていないため増便希望がなく、制約については分からない。
- 観光旅客側からの問題として、税関、警察、秘密警察等検査機関が多過ぎることがある。
- 出国に際し、CORPACの空港使用料徴集者が一人しかおらず、数便重なりと長い列となる。
- 地下の保税倉庫の管理状態が悪く、毎日のように盗難がある。
- コンテナ・パレットの管理状態が悪く、トイレ代りに使用されたりすることがある。
- 立入り制限地区に一般の人間が入っている。

- エプロン照明が乏しい。
- 気象の面からは特にボーディングブリッジを必要とはしていない。
- 入国と出国に旅客動線の一階、二階分離があった方がよい。
- 出国手荷物のソーティングエリアが必要。
- 国内線については、到着手荷物のピックアップ設備がない。
- 国内線エプロンは6スポットあるが、No.11は国際線が使用することがあり、その場合国内線は使用できない。
- 一般の人間がフィンガーまで入ってくる。出入口のコントロールが悪く盗難が起こる。
- 国際線貨物は到着後CORPACに引き渡されるが、紛失に対する安全上の保障がない。
- 新しい貨物建物は、CORPACによる一元管理として、航空会社の管理スペースの確保が認められなかった。
- トランジット客のための待合室や設備（椅子、ロッカー、飲食施設）がない。
- 適切な位置の高速脱出誘導路については、あった方がよい。
- エプロンの舗装にクラックがある。またゴミが有って、エンジンタービンが故障する恐れがある。
- 着陸帯等は土がむき出しとなっており、プラストで巻き上がっている状態。芝生やスタビライザーによる処理があると良い。

〔付属資料H〕 現地写真



写真1 S/W調印式風景 (1)



写真2 S/W調印式風景 (2)

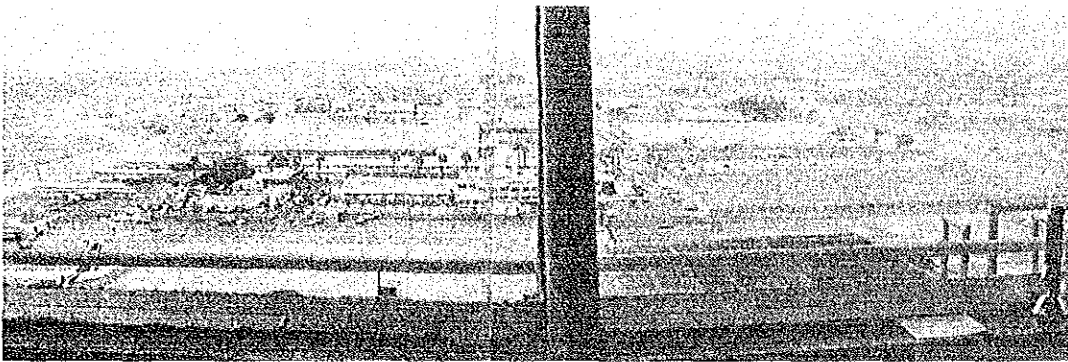


写真3 管制塔から見た空港北側

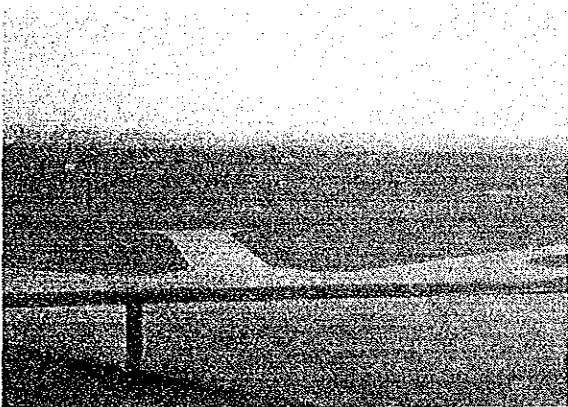


写真4 管制塔から見た空港西側

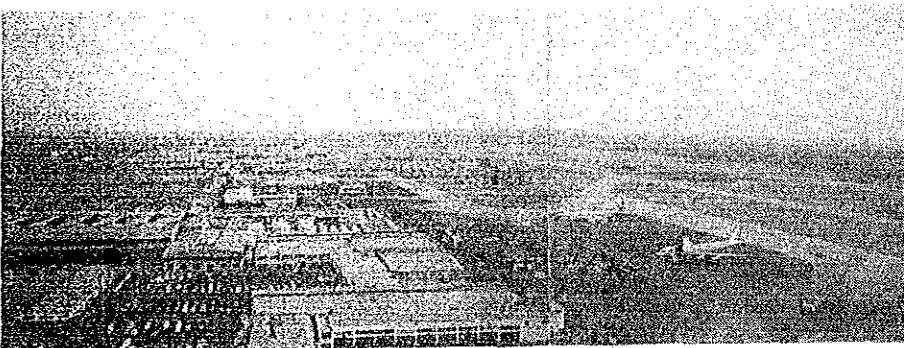


写真5 管制塔から見た空港南側

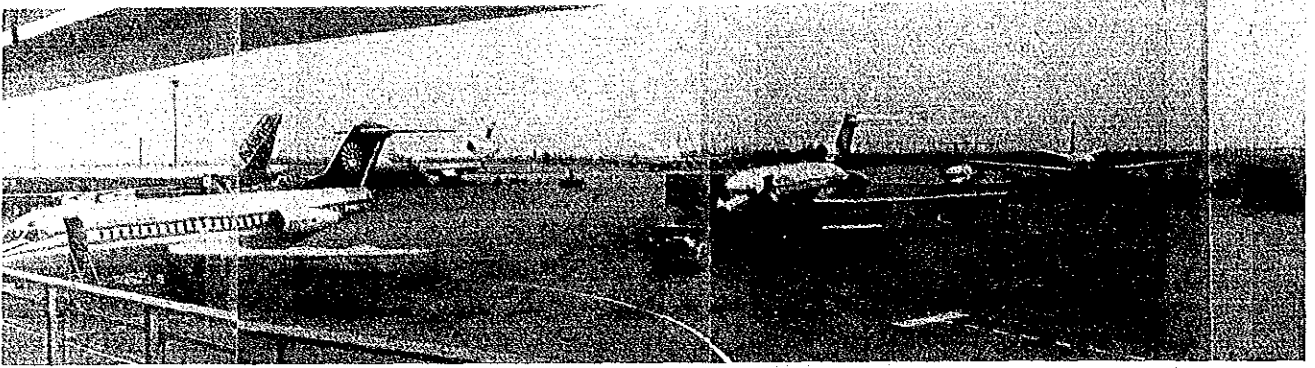


写真6 エプロンの状況

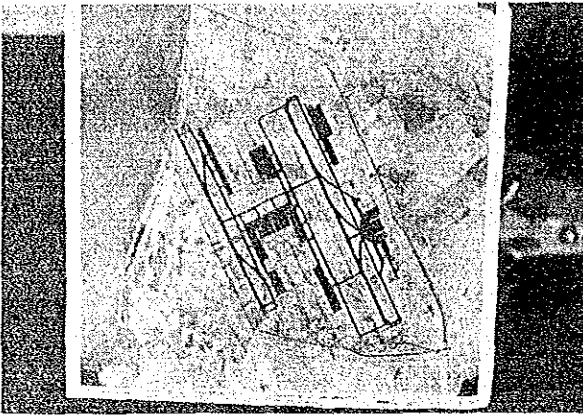


写真7 将来の空港拡張計画

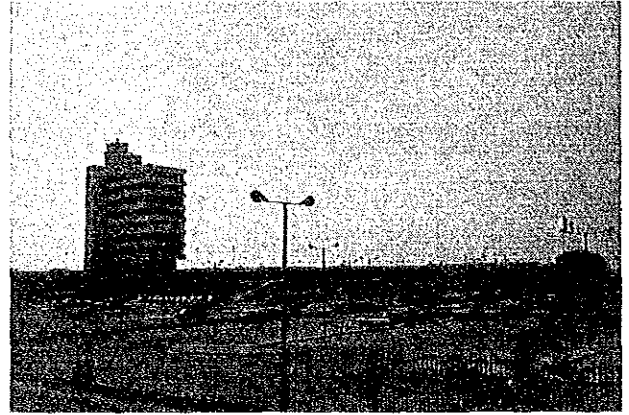


写真8 駐車場側から見た旅客ターミナルビル

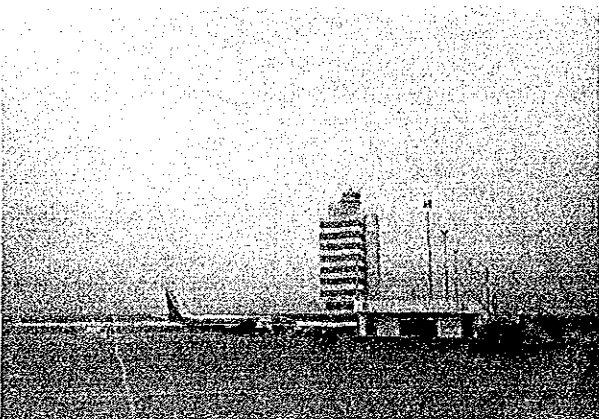


写真9 エプロン側から見た旅客ターミナルビル (1)

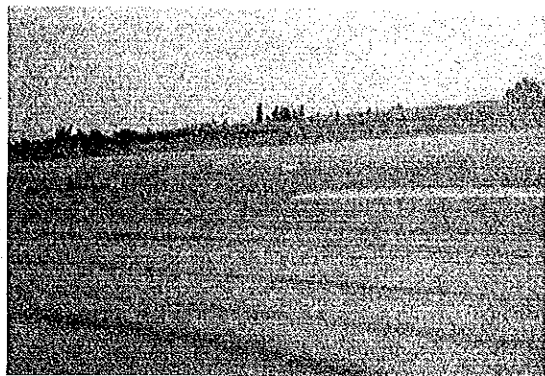


写真10 滑走路舗装の状況 (1)
(縦クラックが見られる)



写真11 滑走路舗装の状況 (2)



写真12 滑走路舗装の状況 (3)
(アスファルトオーバーレイをした部分)

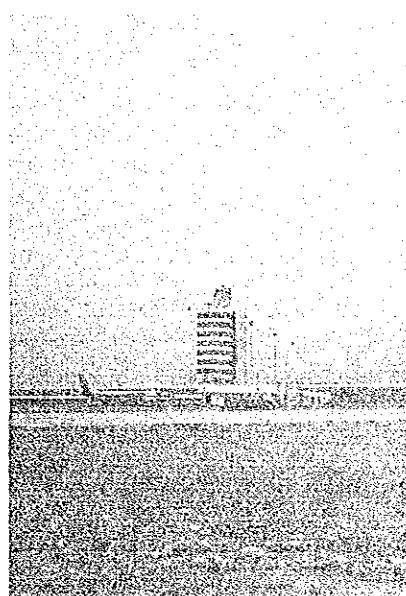


写真13 着陸帯の状況

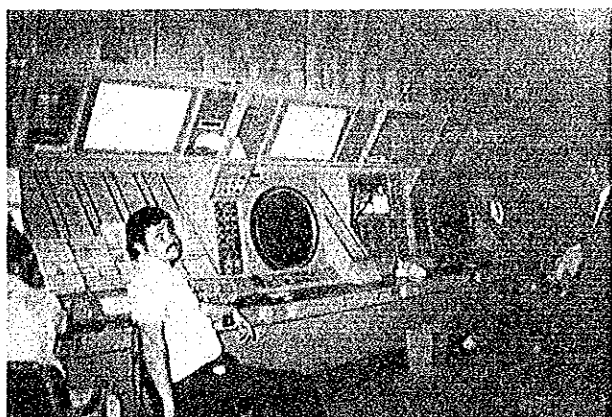


写真14 IFRルーム (I)

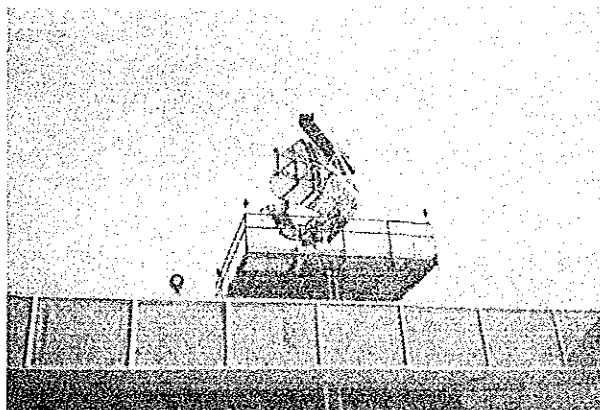


写真15 レーダー

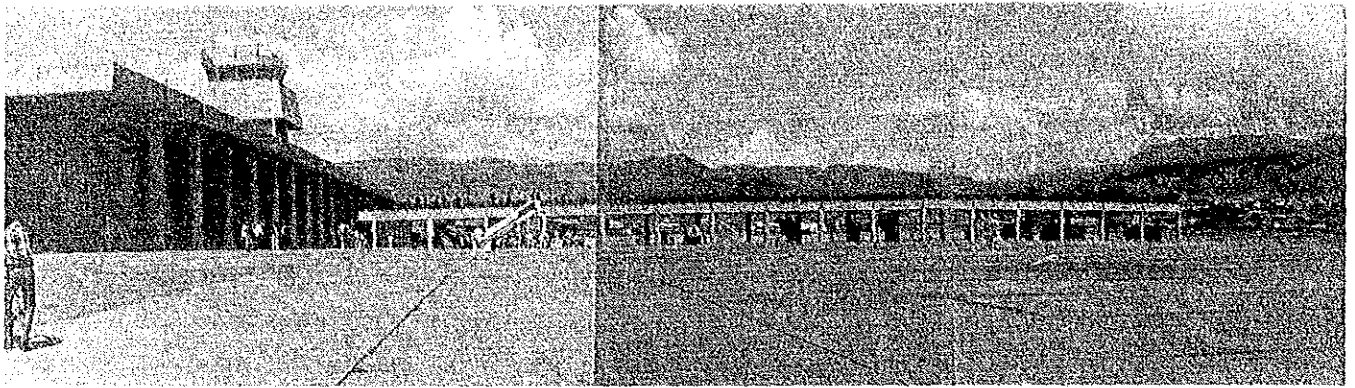


写真16 クスコ空港

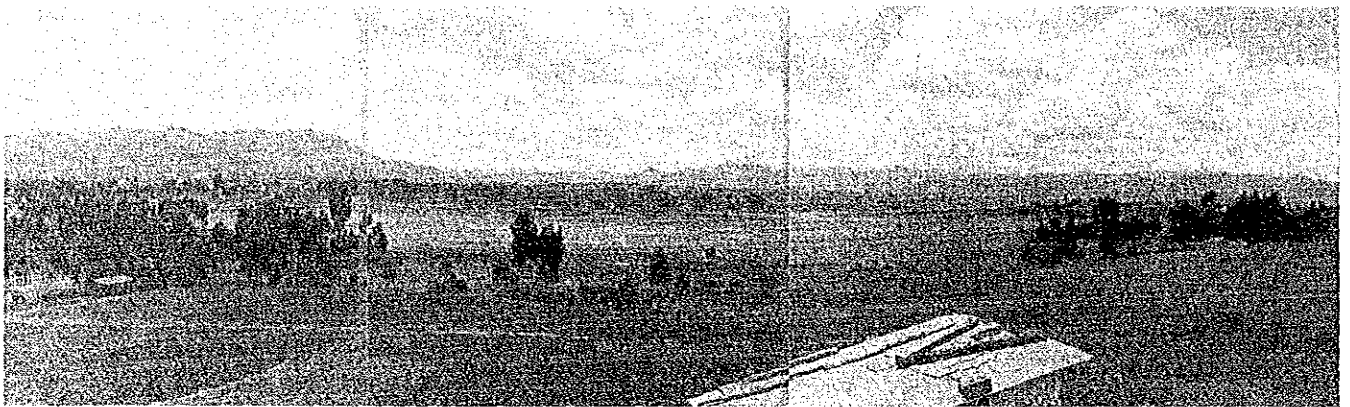


写真17 新クスコ空港用地 (チンチェロ)



写真18 新クスコ空港調査風景

JICA